

2011年10月29日版

文責：田中秀幸

社会・経済システム学会第30回大会
企画シンポジウム
「震災復興とソーシャル・イノベーション」

1. 日時

2011年10月30日（日）14：10-16：30

2. 場所

東京大学山上会館2階大会議室（本郷キャンパス）

3. 趣旨

今回のシンポジウムは、2011年3月11日の大震災からの復興をテーマとして、何が課題であって、それに対して、どのように考えるべきかについて、ソーシャル・イノベーションの観点から掘り下げることがを目的とする。

今回の大会テーマは「イノベーションと社会・経済システム」となっているが、ここで言うイノベーションは、技術革新にとどまらず、社会のシステムの革新を含むものである。そして、イノベーションのあり方は、オープン、グローバル、そして、フラットなものに変化しており、社会の課題解決のためには、こうした時代の変化を取り入れ、あるいは先取りした形で、新たな社会システムや制度の構築をはかる必要がある。

現在、大震災からの復興は急務の課題となっており、政府、民間を問わず、数多くの取組が進められている。しかしながら、従来の社会システムを前提としていては、必ずしも復興が実現するかどうかは明らかではない。例えば、政府に関して見れば、GDP比で200%ほどの多額の公的債務残高を抱えており、財政的側面に限ってみても、政府に復興のための余力が十分に残っているとは言い難い。また、民間企業による復興の取組については、市場メカニズムの負の側面に着目した懐疑的な見方が示されることもある。震災からの復興に当たっては、こうした限界を超えるべく、社会システムの刷新という意味でのイノベーションが求められている。

今般の震災への対応に限らず、社会的な課題にどのように対応するかについては、政府、市場、そしてサードセクターの役割が多面的に論じられている。しかしながら、それぞれのセクターについて個別に論じるだけでは、複雑化す

る社会の問題を取り扱うことが困難になりつつある。むしろ、これらのセクターが相互依存的な関係にあることを踏まえ、新たな社会・経済のあり方をトータルなシステムとして構想する、ソーシャル・イノベーションが重要である。

今回のパネルディスカッションでは、新たな社会システムの鍵となり得るソーシャル・イノベーションの観点から、復興という中長期のテーマを取り扱う。復興については、まだ、緒に就いたところであり、このシンポジウムを開催する時点では、一定のまとまった報告や結論を出すことは困難な段階にある。そのような前提には立ちながらも、大震災をはじめ日本の社会を取り巻く環境や前提条件が抜本的に変化する中で、持続可能な社会、そのための社会システムを実現するためには、何が課題になっているか、それについてどのように考えるかについて論じたい。

4. プログラム（敬称略）

14：10-14：15 趣旨説明（田中秀幸）

14：15-15：35 パネリストによるプレゼンテーション

14：15-14：35 「生活者の視点からの震災復興」（奈良由美子）

14：35-14：55 「地域づくりとソーシャル・ビジネス」（虎岩雅明）

14：55-15：15 「情報透過型社会のソーシャルアーキテクチャデザイン」（出口弘）

15：15-15：35 「震災復興に向けたソーシャル・イノベーションに対する期待と課題」（谷本寛治）

15：35-16：30 パネルディスカッション

パネリスト（奈良、虎岩、出口、谷本）＋司会進行（田中）